

## 「当院は脳血管内治療を得意とする病院です」

**脳** 血管内治療(endovascular treatment:EVT)は、近年急速に発展した新しい治療方法ですが、その効果は次々と科学的に証明されており、今後、脳卒中治療の中心になっていくことは間違いありません。**頭を切らずに治せる**ことは、患者さんの精神的・肉体的な負担を軽くすることができます。

EVT は新しい治療法のため、専門医がまだ少なく、病院によって大きな差があります。**当院は脳神経血管内専門医が 3 名在籍**しており、さらに京都大学からのサポート体制が確立しているため、EVTをたいへん得意としている病院です。

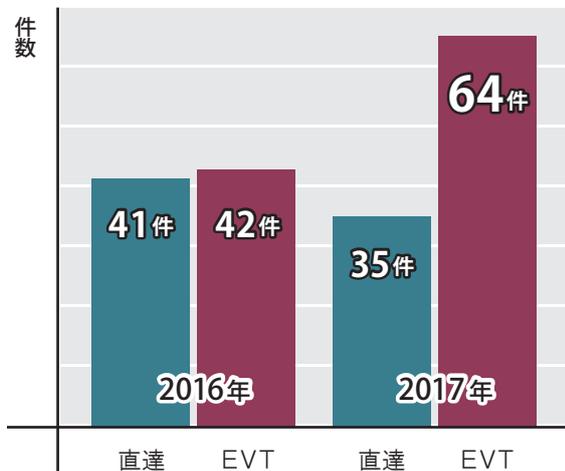


外来担当表

月	火	水	木	金	土
稲野	稲野	担当医	稲野	稲野	担当医
合田 <small>紹介 予約</small>	荻野 <small>紹介 予約</small>		堀川 <small>紹介 予約</small>	合田 <small>紹介 予約</small>	
村井 <small>紹介 予約</small>	堀川 <small>紹介 予約</small>		村井 <small>紹介 予約</small>	荻野 <small>紹介 予約</small>	

赤字は脳神経血管内専門医

2017年の当院での脳血管障害（脳卒中）の外科的治療件数は101件でした。うち、直達手術35件（前年41）、EVT:64件（前年42）、と既に倍近くになっています。



## 2017年 脳血管障害治療内訳

2017年	直達手術	EVT
脳動脈瘤	14	17
頸動脈狭窄症	1	18
血栓回収術	—	19
その他	20	10
総計	35	64

主なEVTの対象疾患は、脳動脈瘤、頸動脈狭窄症、脳梗塞超急性期（脳血管急性閉塞）です。これまでクリッピング術のみであった脳動脈瘤治療はコイル塞栓術に、頸動脈狭窄症に対する頸動脈内膜剥離術は頸動脈ステント留置術に変わりつつあります。また、脳梗塞超急性期治療は、tPA 静注療法（血栓溶解療法）に加えて、EVTによる血栓回収術の有効性が証明され、必須の治療となっています。当院でも急速に症例が増えています。

すべての脳卒中をEVTだけで治療できる訳ではなく、直達手術の方が向いている症例も少なくありません。また、EVTのバックアップとして常に直達手術が行える体制が必要です。直達手術とEVTの両方を行うことを「二刀流」と呼んでおり、今後の脳卒中診療には必須の体制です。当院はこの二刀流を実践している病院です。治療適応の検討も含めて、脳血管障害の治療にお困りのとき、お悩みのときは、ぜひご相談ください。